

保存版

2026年度改定

野田市

防災 ハンド ブック



はじめに 1

災害が起こる前に 2

地震だ！
まずは身の安全を確保しましょう 3

地震に備えましょう
家の周囲の安全対策・耐震・家具転倒防止等・帰宅困難 5

地震火災に備えましょう 9

自助、共助が重要なワケ 10

風水害を正しく理解しましょう
警戒レベルと防災気象情報、土砂災害・竜巻 11

マイ・タイムラインを作りましょう 13

「立ち退き避難」と「屋内安全確保」 14

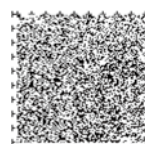
風水害から身を守る 15

災害時のモノの備え
非常持出品・備蓄品 17

野田市指定避難所・避難場所マップ 19

家族との連絡方法等を
決めておきましょう 21

音声コード
Uni-Voice
付き



はじめに

自分たちで備え、 自分たちで守る

近年、日本は全国各地で自然災害による大きな被害を受けています。毎年のように発生し、その規模が拡大している風水害や、いつ発生してもおかしくない巨大地震など、防災や減災対策は待ったなしの状況です。

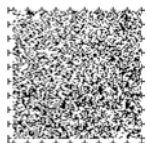
私たちは、地震や風水害といった自然災害の発生を防ぐことはできません。しかし、日頃から防災意識を高め、必要な備えをすることで、災害が発生したときの被害を減らすことができます。

そのためには、災害に対して国や都道府県、市区町村などが取り組む「公助」だけでなく、自分のことは自分で守る「自助」や、地域住民で助け合う「共助」の充実が不可欠です。

特に大きな災害が発生したとき、公的な災害救援活動には限界があります。こうしたときこそ市民の皆さんの協力が必要です。

この冊子は、総合的な防災ハンドブックとして、自助や共助の活動における具体的なアドバイスや、地震や風水害など災害ごとの基礎知識、災害に備えるポイントなどについて紹介しています。

各家庭や地域の人たちで協力して準備し、いざというときに迅速かつ適切な行動ができる防災体制をつくりましょう。



災害が起こる前に

ハザードマップで 自宅周辺の災害危険度を 確認する



地震や洪水などの災害発生時、自宅周辺にどのような危険があるのかをハザードマップで確認し、あらかじめ家族で対策を立てておきましょう。

ハザードマップとは

ハザードマップは災害発生時に想定される被害の範囲や程度、避難場所や避難所の位置などを示した地図です。

● 主なハザードマップの種類と確認できる情報

洪水	河川が氾濫したときに想定される浸水域や浸水深
内水	下水道等の排水能力を超えた大雨の際に想定される浸水域や浸水深
土砂災害	土砂災害の発生するおそれがある区域
地震	地震発生時の震度など揺れの大きさや液状化の程度

国土交通省の 「ハザードマップポータルサイト」



全国の自治体の各種ハザードマップ等を確認できます。



※ウェブサイトの URL 変更や公開終了により閲覧できない場合があります。その場合はサイト名等での検索をお願いします。

ハザードマップをもとに家族で話し合いたいこと



- 避難場所や避難所の確認
- 避難のタイミングや避難ルートの検討
- 避難ルートにある危険箇所（ブロック塀、狭い路地、古い建物など）のチェック
- 子どもや高齢者など要配慮者や避難行動要支援者への対応、避難方法の検討
- 在宅避難に備えた水や食料の備蓄
- 自宅の耐震化や家具の転倒防止などの地震対策
- 自宅の修繕や土のうの備蓄などの風水害対策 など

※ハザードマップはあくまでも特定の想定に基づく被害予測です。想定とは異なる被害が発生する可能性があることを常に意識することが重要です。

